



特集にあたって（〈特集〉自治体史編さんの現在：参加と活用の新しい取り組み）

編集委員会

(Citation)

Link：地域・大学・文化：神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報, 15:4-4

(Issue Date)

2023-12

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100489528>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489528>



自治体史編さんの現在

—参加と活用の新しい取り組み—

特集にあたって

編集委員会

私たちが地域の歴史を知ろうとするとき、その手がかりとなるのが、自治体史である。自治体史の編さんにあたっては、地域に所在する資料を中心とした大がかりな調査が行われ、叙述に向けても様々な議論が重ねられる。このため、発刊に至るまでには膨大な時間と労力、そして費用を必要とする。

完成した自治体史やその活用をめぐつても、これまで多くの課題が指摘されてきた。例えば、内容が専門的で一般市民にとっては難解である、厚冊時には全一〇数巻にも及び手軽さに欠ける、刊行後の周知や活用が不十分なためそもそも地域住民の手に取られることが少ない、といったものである。自治体史そのものが抱える課題だけでなく、編さん時の過程の問題もある。地域住民の多くが知らない間に資料調査が行われる、地域への成果（調査報告）の還元もなされない、調査のため借用した資料が返却されない、あるいは返却後のフォローが不十分だったために資料が散逸した、などといった問題である。以上のような課題を克服するため、この間、全国各地で、様々な工夫をこらした自治体史編さんが進められてきた。多くの課題を抱えながらも、自治体史の編さんと活用は、今まさに曲がり角にきているといえる。

本特集では、まず奥村弘氏に編者・執筆者としての多くの自治体史に関わって来られた立場からご執筆いただいた。また編さん事業をすすめる自治体の担当者、編さん前、編さん中、編さん後というそれぞれが位置する時期における取り組みの実態を基にテーマに迫っていただいた。

なお、本特集は、二〇二三年一月二一日（土）に開催された第二一回歴史文化をめぐる地域連携協議会における報告を中心に構成した。

（文責 井上舞・木村修二）